

市立病院だより

開院15周年！



平成4年7月開院当初の『見附市立病院』

- ・見附小学校『フラワー委員会』の皆さんが植栽に来てくれました。(5/22)
- ・見附市立病院のホームページをリニューアルいたしました。(5/31)
- ・院内 PHS システム導入により迅速な連絡体制が整備されました。(6/4)
- ・7月から「整形外科(新潟大学)」の診察が午後になりました。(7/1)
- ・8月1日より院内全館禁煙となります。

発行 見附市立病院

見附市学校町2丁目13番50号 TEL62-2800 FAX61-1700

ホームページアドレス <http://www2.city.mitsuke.niigata.jp/hospital/>

Eメールアドレス mitsuke-hospital@city.mitsuke.niigata.jp

開院十五周年を迎えて

見附市長 久住時男

見附市立病院が平成四年に開院いたしました。七月一日で満十五周年を迎えましたので、ひとことご挨拶いたします。開設開院当初は、医師及び医療従事者の不足で、大変ご苦勞されたと聞いております。この十五年間に渡り、本当にご努力された関係者の皆さまに心から感謝を申し上げます。

いま病院をめぐる環境は、大変厳しいものです。先般、国の分権委員会からヒアリングを求められて、ある大学教授に、『長岡市に高度病院がありながら市立病院を経営するというのは、意味があるのですか』と言われました。私は、『地域医療や医療連携、それから病院連携という中で、これからの医療が成り立つのは間違いない』と

堂々と答えました。私どもは、自治体病院がある町は間違はなく、市民にとって住む人にとっては幸せなことだと申し上げました。と言いますのは、民間病院というのは当然患者さまがいなければ成り立たないという前提条件がありますが、自治体病院というのは福祉、健康、保健が結びつき、この町には病人がいなくなつたということが実は理想なのであります。そのためには、福祉や保健の部門といかにこの病院が連携するかというのが自治体病院の存在価値であり、それがあつた限りこの自治体病院を今後も支援していきます。

先日、厚生労働省で医師不足等の問題を検討する委員会を立ち上げました。私は副座長であります。原因のひとつに病院勤務医の過重労働があります。これを解消するためには、まず高度医療、

それから地元、診療と役割分担をしなければいけないことを国民や市民の皆さまに訴えたい。第一には診療所、または地域の病院、それから連携をして高度医療に繋がる。このような形でないと勤務医の先生方は、体がもたないということでもあります。そういう面で見附市は、見附市立病院の特徴をはつきり明確にさせ、それを発信していく。そこに賛同される医師が、一人でも二人でも繋がるような形で今後もやっていきたいと思っております。

それから、赤字体質になることにより、設備投資がためらわれる。そして、設備が古くなると医師が集まつてこない。また患者さまも来なくなる。しかし、こういう時代だからこそ、逆にこういう時だからこそ、改修を思い切つてやろうと検討しております。これについて

は診療報酬などのこれからの状況がわかりませんから、そのあたりを見据えた上で、院長に一任をして今進めていただいております。先ほど述べた地域医療、自治体の病院がある地域というのがいかにすばらしいかを知っていたたく。その意味では、指定管理者制度はふさわしくないと私は思っております。

その面で、開かれた病院という形で今後も進めていくことによつて、市としても今後この体制を維持しながらやっていきたいと考えております。

十五周年にあたりまして、関係者の今までのご苦勞を感謝申し上げますとともに、またこれからもこの地域を支えていただければありがたいと思ひます。

開院十五周年の御礼

病院長 南村哲司

市立病院は、平成四年七月一日に開院してから今年で開院十五周年を迎えることができました。このことは、ひとえに市民の皆様のご支援とご協力のたまものと深く感謝申し上げます。

この間に、当院を利用された入院患者数は延べ四十三万名、外来患者数は九十万名、手術件数は四千件を越えました。私どもは、地域に根ざした医療に取り組み、市民の皆様、地域の皆様の健康と安心のために貢献できますことを心より嬉しく思ひます。

昨今の医療を取り巻く社会状況は厳しくなつてまいりますが、節目を向かえ職員一同これからも市民の皆様の期待に応えられる病院でありますよう気持ちを新たに

し「信頼され、愛され、地域とともに歩む病院」を目指して誠心誠意精進してまいりたいと思ひます。

今後とも市民の皆様方のご支援ご協力をお願いして、開院十五年のお礼の挨拶とさせていただきます。

十五周年を迎えて
見附市保健福祉医療センター長

高橋 壮一郎

糸魚川市の姫川病院が六月末をもつて閉院となった。当院よりも医師数、患者数が多く、赤字が少ないのに民営であるが故である。

折柄、コムスンの高齢者や現場職員を食い物にした福祉関連商売や社会保険庁の無謀体質が紙

上を賑わせている。この国の病人や高齢者は、一体どこに流されていくのだろうか。

本病院には、構想段階の平成元年から関与してきたが、この頃の見附市は、高齢化率十四%に至らぬ高齢化社会にあった。しかし、現在は二十四%、六十歳以上の人口は総人口の三割を超えた。

当院も周辺大病院も、産科や小児科を除いては、高齢者ばかりと言つても過言ではない状況にある。

隣接市に総合病院が控える超高齢化社会の市民に、最も望まれる医療は何か。それは成人病（生活習慣病）中心の専門病院であるとして、平成四年七月一日、市立成人病センター病院がオープンしたのである。

山谷家十七代目として、見附

市を終の住処と決心したものの、既に定年を過ぎ、現職のままに在職するのは後数年であるが、気力、知力の続く限り医療に携わっていきたいと思つている。見附市立病院の益々の発展を祈るのみである。

看護の質の向上をめざして

看護部長 川上 妙子

「発表会は中止しないでやりましょう！」と教育師長であった斉藤師長の力強い言葉に促されて、予定より遅れて開催する事を決断した看護研究発表会。それは水害と地震の二つの災害に見舞われた平成十六年の事でした。師走の忙しい時期の土曜日の午前中に、勤務者以外の看護、介護職員が

次々と集まって来るではありませんせんか。外部講師に中央看護専門学校のエリ副校長をお迎えして、開会の挨拶をした事を思い出し、感激を覚えながら「開院から一度も休まず継続してきた看護部職員の皆さんを誇りに思っています」と声が少し震えてしまいました。日々の看護業務に問題意識を持ち研究に積極的に取り組むことは病院にとっての財産になり、発表後にその成果を定着させることが看護の質の向上につながっていきます。病院が小さくても、看護の質の維持、向上はいつも目標です。自信と誇りを持って、これからも市民の皆様に見舞われますように努力していきたいと思えます。

見附市立病院の歩み

- S58.7 見附市地域医療推進協議会の設置
- H元. 8 見附市立成人病センター病院開設計画提出
- H元. 10 見附市立成人病センター病院開設許可
- H2. 3 見附市病院事業の設置等に関する条例制定
- H2. 4 病院開設準備室設置
- H2. 11 見附市立成人病センター病院建設工事着工
- H4. 6 見附市立成人病センター病院建設工事完成
- H4. 7 見附市立成人病センター病院開院
同 初代病院長 高橋壮一郎氏就任
- H5. 11 見附市立成人病センター病院増築工事着工
- H6. 5 見附市立成人病センター病院増築工事完成
同 外科増科
- H7. 6 見附市老人保健施設建設工事着工
- H8. 3 見附市老人保健施設建設工事完成
- H8. 5 見附市老人保健施設「ケアプラザ見附」開設
- H8. 12 戸枝一明病院長就任
- H18. 4 見附市立病院に名称変更
- H18. 5 南村哲司病院長就任
- H18. 7 脳神経外科増科



各科紹介（外来・手術・材料室）

今号から毎号各科の紹介をいたします。第一弾は、外来・手術・材料室の外来部門の紹介をいたします。

市立病院の外来診療科目は次のとおりです。
(都合により診察時間を変更させてもらうことがありますので、お知らせの掲示や受診前に電話等での確認をお勧めします。)

内科・・・月曜～金曜午前、午後 神経内科・・・月曜日午前、午後

一般内科をはじめ、内分泌疾患、高脂血症、糖尿病、肺炎などの呼吸器疾患、パーキンソン病などの神経疾患に対応します。

鼻からの胃カメラ、お腹の調子が気になる方は大腸カメラをお勧めします。

外科・・・月曜～金曜の午前のみ 乳腺外来・・・木曜の午後

消化器がんの外科的治療を中心に胆石症から乳腺まで幅広く診療をしています。特に大腸がんや胆のう結石症は可能な限り腹腔鏡下手術を施行します。

女性スタッフによる乳がん検診(医師、レントゲン、エコー)も行っており、気軽に受けていただけたらと思います。

脳神経外科・・・月曜～金曜の午前、午後(火曜のみ午前休診)

脳梗塞、脳出血などの脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷など脳の病気、ケガを広く診療いたします。

頭痛や物忘れが気になる方はどうぞ受診ください。

整形外科・・・火曜、木曜の午後

切り傷、打撲、捻挫、骨折等の一般の外傷と、手足や関節の病気を診療いたします。

新潟大学の医師が診察いたします。
倉田医師は、事前予約制となります。
(隔週の木曜・金曜)

時間外や夜間、休日の対応は？

当直医一人制です。当直医の専門外は長岡市の二次救急病院を紹介することがあります。あくまでも救急対応です。適切な検査処置等ができる昼間の受診をお勧めします。受診される前に電話をいただければ幸いです。

当院は初めての方や、急に具合が悪くなって受診される方以外は、予約制をとっております。それでもお待ちいただくことがあり、本当に申し訳なく思います。今後も待ち時間短縮にさらに努めていきます。ありがたいことに、一階ロビーには市美術協会の会員のご協力を得てすばらしい絵画が、また名木野小学校の生徒さんが季節ごとに貼り絵を飾っていただいています。それらの作品は、来院者の皆様だけでなく私達職員も心を和ませてもらっています。また診療を待つ間の慰めになればと思い、かわいらしい庭先や野の草花も所々に飾っています。ほんの少し目を向けてみてください。

経鼻胃内視鏡

市立病院では、鼻を通して行う最新の胃カメラの器械を導入いたしました。これまで、胃カメラは口から挿入するものが一般的でしたが、内視鏡が口から挿入されることに抵抗感を持つ患者さんもいらっしゃいます。鉛筆よりも細い内視鏡が登場し、より少ない負担で内視鏡検査を受けていただけるように、鼻からも口からも挿入できる極細内視鏡を導入しました。口からの検査に比べ、検査時の吐き気・不快感をほとんど感じることなく検査を受けることができます。さらには、「検査中も会話がで

最新機器紹介



上:今回導入した内視鏡

きる」というメリットがあります。質問をしたり、気分を伝えたりできるので、安心して検査が受けられます。より苦痛の少ない経鼻内視鏡によって、内視鏡検査がさらに身近なものになることが期待されます。ぜひ、受診して早期発見に努めましょう。



経口挿入

内視鏡が舌のつけ根を通るため、不快や吐き気を感じやすい。



経鼻挿入

内視鏡が舌のつけ根を通らず、のどにも触れないので、不快や吐き気を感じにくい。

<経口挿入と経鼻挿入>

びょういんトピックス

見附小学校フラワー委員会のみなさん、ありがとう！



今年も見附小学校フラワー委員会のみなさまから、サフィニアとテラスライムを植えていただき、正面玄関前が華やかになりました。多くの患者さまの心が癒されます。ありがとうございました。また雨天の作業ご苦労様でした。

PHSシステム導入！

6月より、病院内PHSシステムを導入いたしました。これにより、医師、看護師、その他の担当部署への連絡がスムーズになります。

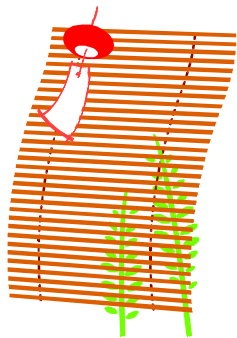
特に、救急隊からの連絡には直接担当医師が対応しますので、さらに時間短縮が図られ、迅速な救急対応が整備されました。

言語聴覚士とは？

5月から市立病院に言語聴覚士が着任いたしました。言語聴覚士とは、脳卒中や加齢などによる言語や聴覚、コミュニケーション、摂食・嚥下の問題で支援を必要とする方々に対して、治療・訓練、QOL(生活の質)の向上や、社会参加のための支援を行っていきます。

編集後記

月日が経つのは早いものです。この病院も今年十五周年を迎えました。そして私もこの病院と共に15才年を取りました。最近小じわも増えました。でも気持ちだけは若く？これからもこの病院と共に、年を取っていこうと思えます。
(ほ)



広報委員

臨床検査科	中村道夫
外来・手術・材料室	渡辺佐紀子
3階病棟	入沢優子
4階病棟	安達八重子
リハビリテーション科	星 由香理
薬剤科	樋山道代
事務部	斉藤 満